
仮面ライダーディケイド The road to END

剣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーディケイド The road to END

【Nコード】

N8623L

【作者名】

剣

【あらすじ】

門屋士「仮面ライダーディケイドは、いくつもの世界を回り、ついにライダー大戦の世界へと辿り着いた。そこで待ち受けていたのは、これまで巡ってきた世界でできた仲間たちの消滅。そして、仲間たちと同じ名前、同じライダーの姿を持つ「剣崎一真」と「紅渡」からの旅の終わりを告げる宣告だった。変身した一真、渡、アルティメットクウガとしてよみがえったユウスケを含む9人のライダー達の猛攻に敗れた士の前に、異世界からのライダー達が現れ、士に襲いかかる。果たして士の運命は……？

初めに「注意」をご覧ください。

注意（前書き）

注意

この小説を読むにあたって、以下のことにご注意ください。

? テレビ最終回におけるデイエンドの乱入シーンは無かった

? 昭和、平成ライダーが倒される

? 独自解釈等によってキャラ崩壊が存在する可能性がある

? に関して、最終回のデイエンド乱入シーンは無かったものとしてこの小説を書くのでご了承ください。

? に関しては、映画ディケイド完結編においてライダー達が倒されてしまったのと同様に、この小説でもライダー達が倒されています。

「お気に入りのこのライダーが倒されるのは納得できない!!」という方はご覧にならない方がよいと思われます。

? に関しては、キャラ崩壊をなるべくしないよう努力いたしますが、どうしても崩壊してしまうことがあると思いますのでお許しください。

あと、この小説ではディケイドはほぼ最強ですが、あくまで「ほぼ」です。ディケイドが負けることもありますので「ディケイドは最強だ!!」という方はお気に召さないかもしれませんのでご注意ください。

長くなってしまいましたが、注意書きは以上です。

では、更新は遅くなるかもしれませんが最後まで続けていきたい

とさせていただきますので、どうかよろしくお願いいたします。m (.) m

プロローグ 「ライダー大戦」

これまでの、仮面ライダーディケイドは……

「ここは……ライダー大戦の世界……！」

「どんな理由があろうとも、ライダー同士が戦うなんて間違ってる……！」

「頼む……世界を救ってくれ……！」

「俺は剣崎一真……またの名を、仮面ライダーブレイド。」

「どんな旅にも無駄はないよ。どんな人生にも無駄がないのと同じようにね。」

「はあああああああああ！！！」

そこにすかさずファイズと龍騎が己の武装であるファイズエッジとドラグセイバーを振り下ろす。

「くっ！」

すかさずディケイドはライドブッカー・ソードモードで二人の剣を受け止める。

キイイン！！と金属特有の音が鳴り、火花が散る。

「このっ……野郎！！！」

ディケイドは強引にファイズと龍騎の得物を押し戻し、立ち上がってカードを一枚取り出しディケイドライバーに装填する。

『Attack Ride SLASH!』

電子音とともにライドブッカーにエネルギーがチャージされ、ファイズと龍騎の二人に斬撃を浴びせようとする。

『Clock Up!』

「！！ぐわあああああああ！！！」

しかし、それは叶うことはなかった。なぜならば、ディケイドがカードを使用すると同時にカブトがクロックアップを発動させたからである。ディケイドはクロックアップしたカブトの前に為す術もなく弾き飛ばされ連続攻撃を浴びせられてしまう。

『Clock Over!』

その電子音とともに、デイケイドは地へと叩き落とされ、クロックアップが解除されたカブトが悠然とデイケイドの前に姿を現す。

「はあっ!」

そしてそのまま、自身の攻撃を受けたまま体勢が立て直せていないデイケイドにカブトクナイガン・クナイモードで襲いかかる。

「くっ!……ぐわっ!がはっ!」

体勢が立て直せていないこともあり、デイケイドはクナイガンの攻撃をまともに食らってしまう。

「調子に……乗るな!」

そのまま地面を転がったデイケイドは新たにカードを一枚取り出し、再びデイケイドライバーへと装填する。

『Attack Ride BLAST!』

ライドブッカーをガンモードへと切り替えてカブトに標準を合わせてトリガーを引く。と、同時に多数の弾が一直線にカブトへ向かって飛来する。

だが、カブトは回避をするでも迫りくる弾を撃ち落とすでもなく、その場を一切動かなかった。いや、動く必要がなかったのである。なぜなら、

「たああああああああ！！」
「何っ！？」

響鬼が鬼棒術「烈火弾」を使い、迫りくる弾を迎撃したからである。

音撃棒・烈火から放たれた火炎弾はデイケイドが放った弾丸に当たると爆発し、その爆発に巻き込まれてカブトを狙った弾はことごとく消え去ってしまう。

そしてそのまま響鬼は音撃棒を構えてデイケイドへと襲いかかる。

「くっ……！！この……！！」

デイケイドは再びライドブッカーをソードモードにして響鬼の攻撃を捌く。

しかし、響鬼の音撃棒を使った猛攻の前に、デイケイドは徐々に後退させられていく。

そして、突然響鬼がデイケイドから距離を取った。

「！！逃がすか！！」

それを好機と見てデイケイドは攻勢に転じようとする。
だが、

「とりやああああああ！！」

「はああああああああ！！」

「！！しまっ……！！」

それは罠であった。響鬼の猛攻に気を取られていたデイケイドは、アギトとキバが自身に必殺技であるライダーキックとダークネスムーンブレイクを放とうとしていたことに気付いていなかったのだ。

る。そして、響鬼の行動が二大ライダーの必殺技を確実に当てるための誘導であるということも。

アギトとキバの必殺キックがディケイドに迫る。

『Attack Ride BARRIER!』

だが、間一髪のところディケイドはバリアを展開することに成功していた。それでも二大ライダーのライダーキックの前には、バリアだけで防ぎきることはできず、キックがディケイドを直撃した。

「うわあああああああ!!」

如何にバリアで威力を緩和できたとはいえ、それでも必殺のキックであることに変わりはない。

ディケイドはキックを受けて大きく弾き飛ばされた。

「ぐうううううう……かはっ!!」

ダメージの大きさに、ディケイドはなかなか立ち上がることができない。

そして、ディケイドの前にブレイド・キングフォームがゆっくりと歩みを進める。

「諦める。どう足掻いたところでお前に勝ち目はない。」

ブレイドKFは言った。

「お前は自分の使命を、全てのライダーを破壊するという使命を忘れた。その結果、世界の融合は進み、各世界は消滅を始めてしまった。だが、その責任はお前を野放しにした俺たちにもある。だから

ら、お前は俺たちの手で倒す。」

そのままブレイドKFはディケイドを掴んで無理やりに起こし、スピードの3「ライオンアンデッド」の力を発動させ、強烈なパンチを浴びせる。

「ぐわあああああああ！！！」

その強烈な拳を受け、再びディケイドは大きく吹き飛ばされる。

「はあ……はあ……好き勝手……言いやがって……ぐっ！！！」

もはやディケイドには戦う力はほとんど残されていないかった。だが、ここで死ぬわけにはいかない。そう強く思いながら、ディケイドは己の「切り札」を取り出す。

『F a i n a l A t t a c k R i d e D E , D E , D E ,
D E C A D E ! 』

そしてさらにもう一枚カードを取り出し、発動させる。

『A t t a c k R i d e I L L U S I O N ! 』

三人に分身したディケイドが、ブレイドKFに向けて一斉にディメンションキックを放つ。かつてV3、スーパー1、BLACKのチームをも打ち破った必殺の一撃である。

だが、ブレイドKFは全く動揺することもなく重醒剣キングラウザーを構え、深く腰を落とす力を解放した。

『R o y a l S t r a i g h t F l u s h ! 』

電子音とともにブレイドKFの前に黄金のスピードの10、「
Q、K、Aのラウズカード状のゲートが現れる。

「はあああああああ……ふんっ、とうああああ！」

そしてブレイドKFは掛け声とともにキングラウザーを横に一閃し、真一文字の巨大にして強大な斬撃波を発生させた。その斬撃波は三人のデイケイドに一直線に向かい直撃した。

ドカアーーーーン！！という強烈な爆音とともに巨大な爆発が発生し、あたり一面に煙が立ち込めた。

その煙が晴れた時そこにあったのは、変身が解除され傷だらけで倒れ伏す土と、キングラウザーを逆手に持ち、仁王立ちする「無敵の王」ブレイド・キングフォームの姿であった。

プロローグ 「ライダー大戦」(後書き)

と、いうわけでお送りいたしました。プロローグです。

戦闘描写が異常に難しいです。もっと精進せねば。

あと、今回のお話はディケイドフルボッコでしたが、ディケイドファンの皆様申し訳ありません。これから活躍するのでお許しください。

あと、ブレイドが強いのは最終フォームであるってことと自分の思い入れが強いつてことがあります。完結編での椿さんが声を当てたブレイドの扱いがひどかったなので、このお話では活躍させる予定でしたので、こうなりました。これからも活躍させるつもりですであしからず。

ではまた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8623/>

仮面ライダーディケイド The road to END

2010年10月8日23時26分発行